

第2回北関東エリア検討会

2022年3月12日、日本看護科学学会若手の会主催「第2回北関東エリア検討会」がオンラインにて開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大は、深刻な社会的変化とともに、看護の実践・教育・研究においても様々な影響を与え続けています。そこで、私たち研究者にとって、研究活動の共有やネットワーク構築の意識づけが重要な課題であると考えました。今回の検討会は、若手ならではの創意工夫を共有し、自らの研究活動をどのように活用できるのかを検討することを目的に企画してみました。

【検討会のテーマ】

コロナ禍での研究活動の不易と流行 ～変わらないものと変わっていくもの～

検討会の参加者は、13人(北関東6人、関東甲信越6人、海外1人)で、自由に意見交換できることを重視しました。具体的には、①コロナ禍での研究活動の困難と工夫、②コロナ禍でも変わらない研究活動の中核、③論文投稿に向けて行っていること、④看護研究者としてのキャリア形成を参加者の方々が検討会前に選択できる機会を作り、それらの内容に応じてグルーピングしました。また、全体での自己紹介を行い、2人のファシリテーターを配置した2つのグループをシャッフルして、35分間の意見交換を2回と最後にまとめを行いました。

意見交換では、コロナ禍の影響で、研究者や研究協力者の多忙さで研究活動が困難になっていたこと、ネットワーク構築に向けたプラットフォームづくりの提案、Slackの活用等などの具体的な取り組みとしての創意工夫が話し合われました。また、論文投稿における経験や業務の効率化に向けた方法などを共有することができ、ライフワークバランスを研究活動の中核として、参加者の方々がそれぞれが不易となるマインドを確認し合う機会にもなりました。



フリータイムでは、検討会の感想をフランクに話される方、デジタル名刺を交換される方、エリア検討会へのニーズを教えてください方、楽しく笑いあひのひとときでした。これからも、エリアコーディネーターとして、変わっていく活動のチャレンジと変わらない価値のチャージを心得ながら、若手の研究活動を推進していきたいと考えています。

北関東エリアコーディネーター
荻原弘幸・小西美樹・金澤悠喜・竹山美穂・永井智子

参加者アンケートからのコメント（一部を改訂して抜粋）

- ・研究を進める上での時間管理や仕事への向き合い方のヒントを得ることができました。
- ・他の方が同じような悩みや考えを持っていることを知り、教育研究者としてのモチベーションがアップしました。
- ・とても刺激を受けました。研究の話をする場がないので、このような会を開いていただくと励みになります。
- ・オンラインでのデータ収集の具体的な方法、メリットやデメリットなど、いろいろ聞けて良かったです。
- ・テーマは、時期やメンバーによっても、いろいろな話が聴けるので、同じようなテーマでも定期的開催してもらえるとありがたいです。
- ・若手でざっくばらんに話せる機会がほしいです。もう少しコネクションが作れるような内容・工夫を希望します。